三重県護国神社奉賛会報

第八十一号

奉賛会総会　10月26日(金) 午後2時開催

―平成二十四年度―
三重県護国神社奉賛会

『総　会』開催のご案内

会員各位のご協力・ご奉賛をいただきまして、平成二十三年度も恙なく終了できましたこと、心より御礼申し上げます。

平成二十四年九月一日より新年度に入りました。

つきましては、左記により「平成二十四年度」（平成二十四年九月一日～翌年八月三十一日迄）の総会を開催致しますので、多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

尚、会員各位には、返信葉書を同封させていただきましたので、来る十月二十日までに、出欠の有無をお知らせくださいますよう、お願い致します。

記

一、開催日　平成二十四年十月二十六日
一、場　所　三重県護国神社
一、時　間　午後一時～
「受付」参集殿
午後二時～
「英霊遺徳顕彰祭」拝殿
午後二時三十分～
「総会」南参集室

会費納入のお願い

新年度『平成二十四年度』（平成二十四年九月一日～翌年八月三十一日迄）に入りましたので、新年度会費を納入頂きますようお願い申し上げます。

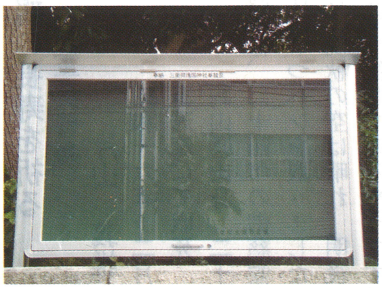
尚、納入の際は奉賛会専用の振込用紙をご利用下さい。

※送金手数料は奉賛会で負担いたします。

年度会費　正会員　二千円
特別会員　一万円

掲示板を奉納

去る平成二十四年八月、掲示板を奉賛会として護国神社に奉納した。



――英霊の言乃葉――

ハワイ作戦の首途に遺す

海軍飛行兵曹長　長井　泉　命

昭和十六年十二月八日
真珠湾にて戦死
熊本県出身　二十歳

ハワイ作戦の首途に当り、一筆書遺し候。我れ国家の為に死す。男子と生れ、皇国に生を享け、然も軍人として屍を戦場に露すことは軍人の本望である。稀くば、われなき後は弟、洋を以て立派なる帝国軍人となし、国家の守りに立たせ給はらんことを。この度の戦、一挙にして終るべきにあらずして、東洋平和確立までには、幾星霜かゝるやも測り知れず、この覚悟決してお忘れあるまじく、この世に生をうけてから二十年余り、慈愛の胸に抱かれ、何一つとして不自由な思ひをしたこととてないわがまゝばかりを申して今日まで心配をかけてまゐり、一度の親孝行のまねごとさへ出来ず、老後の面倒さへも見ることもあたはずして、先立つことは何よりも心残りに存じてゐます。

然れども国家存亡の秋にあたり、私情を云々することあたはず、皇国君恩の万一に報ぜん時、かねて父上よりの教訓、国家の為に死することこそ最大の親孝行なりといふことを銘記し、必ずやこれといふ勲功は立てずとも、決して他人におくれはとらぬやう最後の御奉公を致す覚悟です。されば何卒先立つ罪はお赦し下されたく、御両親におかれても、既に私亡き時の覚悟は充分あられることゝは信じて居りますけれど決してお嘆きあるまじく、若し報入りなば、先ず倅よくやつたと、おほめ下され度く、特に母上には身体も病弱故、お嘆きのあまり寿命を短められるやうな事があればなほ一層のことわれ重ねて親不孝ともなります。

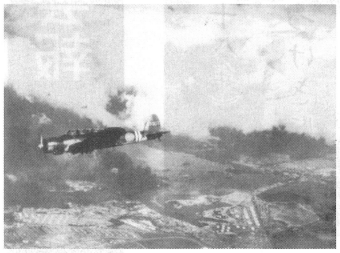
身はたとへ太平洋に水漬くとも留め置かまし大和魂

今更におどろくべきもあらぬなりかねて待ちこしこの度の旅

泉　拝

父　上、母　上　様

【昭和四十一年十二月靖國神社社頭掲示】



初陣に當つて

海軍飛行兵曹長　外山　維良　命

航空母艦「飛龍」
昭和十六年十二月八日
ハワイ附近にて戦死
福岡県出身　二十歳

もしも私の死後この手帳を手にされる事がありましたらその時は初陣に臨むに當つてこんな氣持を持つてゐたと御想像下さい。（中略）

飛龍に来て最初に艦長に接した時よりこの人の下ならば死んでもかまはないと思つた。つまり俗に云ふ一目見て艦長にほれたのです。それで艦長より訓示がある時は一生懸命できいたものです。しかし今日の訓示程私の身内をひきしまらせたものはありませんでした。今日の話を聞いてゐる中に愈自分は死地に向ふのだと思ひました。

さう思ふと過去のことがあれやこれやと次から次に浮び上がつては消え消えては浮び上がつて来ました。中でも何度も何度も浮び上がつて来るのはやはり故郷のことでした。今頃父様、母様はどうして居られるだらうか。父様の足は大分よくなつたとは云つて居られたが。母様の口の神経痛はどうだらうなど。（中略）そして子供の時よく登つたハゼの老木、池、カラスの巣をとつたりした裏の森なども浮いてきました。

【平成十五年十月靖國神社社頭掲示】

御両親の長寿を祈る

海軍兵曹長　片山　義雄　命

昭和十六年十二月八日
真珠湾にて戦死
岡山県出身　二十三歳

御両親様、二十四年の御慈愛を今思ひ浮べつつペンを取りました。深み行く晩秋の空は晴れ、明後日の船出を空も祝してゐるやうです。義雄は元気で軍人の本分を為し遂げて御國の為に船諸共先陣の花と散ります。

どうぞ御両親様には、義雄死の公報ありましたならば、二十四年間一度の孝行、どうぞ褒めてやつて下さいませ。

如何なる戦功なるかは発表ありませんでせうが「（戦死）（殉死）」御力落しなく。一人の死よりも日本海軍の軍機大切。

どうぞ御両親様には暑さ寒さに気をつけられ、長寿を全うせられます様地下より御祈り致して居ります。

義雄　拝

○月○日夜半

【昭和五十一年十二月靖國神社社頭掲示】